

関係機関・団体長
病害虫防除員
農薬管理指導士

様

山口県病害虫防除所長

水稻の斑点米カメムシ類 (アカジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハラカメムシ等) の発生状況と
防除対策 (技術資料第 6 号) について

このことについて、下記のとおり送付しますので防除指導の参考にしてください。

記

1 発生状況

- (1) 農業試験場(山口市大内御堀)の雑草地に設置したクモヘリカメムシのトラップにおける誘殺数は、25頭(前年5頭)で発生の多かった前年に比べ多かった。
- (2) 8月8～10日の巡回調査で出穂していたほ場における20回すくい取り調査では、発生ほ場率は50.0%(平成35.4%)で平年に比べやや多く、発生虫数はアカジカスミカメが平年に比べ多かった(図)。

2 今後の予想

- (1) 発生地域 県内全域
- (2) 発生時期 出穂期以降
- (3) 発生程度 やや多

3 防除対策(防除時期等)

- (1) 既に出穂したほ場(コシヒカリ等)
穂揃期と穂揃期後7日の2回防除を行った後、更にはほ場でカメムシ類の発生が見られる場合は直ちに追加防除を実施する。
なお、追加防除は出穂後3週間以内に実施する。
- (2) 今後出穂するほ場(ヒノヒカリ等)
出穂後発生を確認したら防除を実施する。防除時期は粉剤及び液剤では穂揃期と穂揃期後7日目の2回である。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 今後、好天が続くとイネ科雑草(エノコログサ、ヒエ、メヒシバ等)の穂が枯れクモヘリカメムシ等が出穂したほ場へ移動することが考えられ、8月中旬以降に出穂するほ場でも注意が必要である。
- (2) 出穂期や出穂直前に草刈りをするとカメムシ類の水田への移動を助長するので草刈りは実施しない。
- (3) 畦畔や休耕田に出穂したイネ科雑草がある場合は本田と併せて防除を行う。
- (4) カメムシ類は広範囲に移動するので、地域で一斉防除を行うと効果が高い。

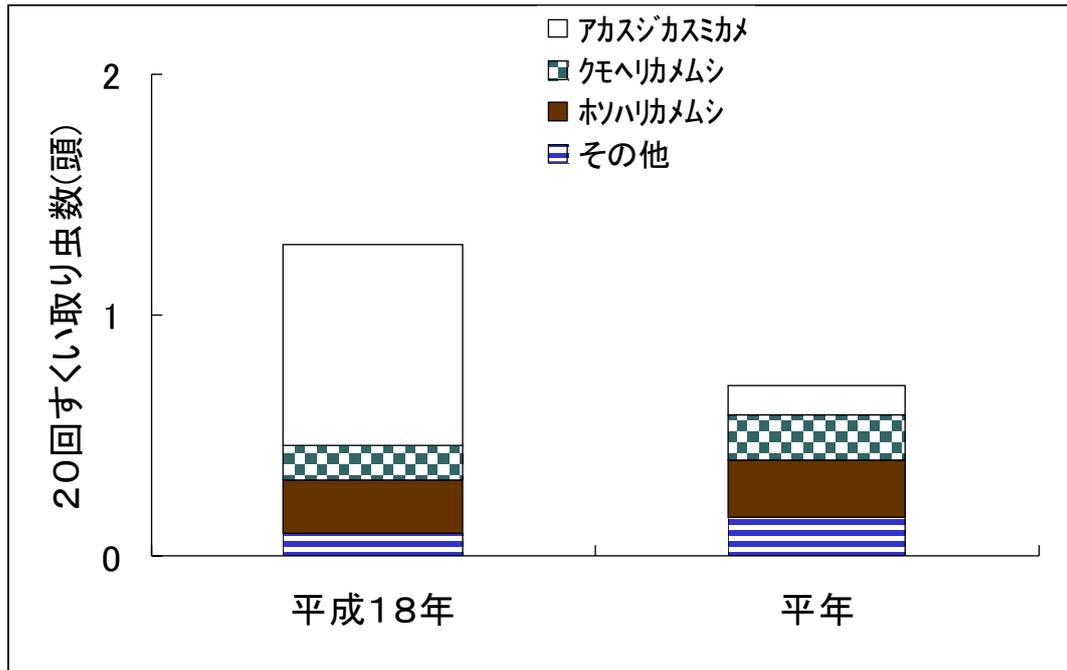


図 巡回調査で出穂していたほ場における20回すくい取り調査

(参考) 用語解説

出穂期とは、出穂すると思われる全茎数の40～50%が出穂した日。

穂揃期とは、出穂すると思われる全茎数の80～90%が出穂した日。